

## 生駒市の景観の現状・課題と景観形成の理念・目標（案）

## 1. 生駒の景観の構造

## (1) 全体の景観構造

- ・ 竜田川流域（生駒谷）
    - ・ ・ ・ 秋津洲やまと型景観＋神奈備山型景観
  - ・ 富雄川流域・ ・ ・ 水分型景観＋隠国型景観
  - ・ 眺望景観による検証
- 地形と流域が規定する骨格となる景観構造が現在まで継承され息づいている

## (2) 歴史的、文化的文脈と景観の特徴

- ・ 生駒谷のモリさん信仰
- ・ 集落の構造
  - 生駒山との関係、寺社との関係、モリさんや農地、家屋の関係
- ・ 集落の景観の特徴

## (3) 住宅団地の開発の経緯と景観の特徴

- ・ 鉄道敷設以後、放射状に住宅地が造成
- ・ 時代背景や建設技術に即し特徴ある住宅地が形成
  - 昭和30～40年代の戸建て住宅地（東生駒、生駒台など）
  - 昭和50～60年代の戸建て住宅地（萩の台など）
  - 平成以降の戸建て住宅地（西白庭台など）
  - 集合住宅地（東生駒駅周辺、白庭台駅周辺）

## 3. 景観形成の課題

## (1) 生駒のアイデンティティを体現する景観の構造をどう認識し、後世に継承していくのか

地形、流域に加え信仰・風土が形成した景観、時代に応じて築かれた多様な住宅地の景観を普段意識することは少ないが、それらが現在の景観のベースとなっており、生駒のアイデンティティを形成している。

これらをどう認識し、生駒らしい景観として継承していくのか、かが課題である。

## 2-1. 景観の現況（類型別）※現行ガイドプランの類型に即して整理



## 2-2. 景観の変化（暮らし、活動）

①自然公園や風致地区の指定などにより、大半は開発からは保全されているが、山林・水辺と暮らしとの関わりが希薄化し、自然環境の劣化が進むなど質的な変化が進んでいる

②それに対して、市民によるレクリエーション的な活用、山麓保全の活動、地域での清掃活動が行われているが、広大な山麓・丘陵などに対し十分手が届かない

①北部を中心とした田園景観や、街道沿いや寺社周辺に見られる歴史・文化を感じる景観が、生駒市の魅力ある景観として十分認識されていない

②農業の担い手は兼業農家が多く、高齢化・後継者不足も顕在化しつつあることなどを背景に、今後、農地や集落を維持していくことが難しくなりつつある

①比較的開発年代の古い住宅団地などを中心に、空き家・空き地の増加、相続等を契機とした建て替えによる敷地の細分化が進んでいる

②生活行動の広域化や自動車利用の更なる進展、ICT利用の拡大などにより市民の買い物行動が変化し、中心市街地から郊外の幹線道路沿道などへとにぎわいの中心が分散化してきている

## 4. 景観形成の理念・目標（案）

理念：（キーワード）生駒らしい景観、アイデンティティ、再発見、継承・ ・ ・

## (1) 地形と流域、信仰や風土が形づくった生駒のアイデンティティの源泉となる景観構造を継承する

- ・ 生駒山、矢田丘陵、竜田川流域（生駒谷）と富雄川流域
- ・ 生駒山の信仰、モリさん信仰、集落の構造

## (2) 場所の特性に応じた景観の保全・誘導を図り、生駒のまち全体の魅力を高める

- ①山麓・丘陵、河川など、骨格となる景観の保全
- ②拠点地区、幹線道路沿道など、人の目に多く触れ印象を左右する景観の誘導
- ③集落や住宅地など、形成の過程（なりたち）からの景観の読み解き

## (3) 身近な景観（生活景）を多様な暮らし・活動の関わりにより支えていく

- ・ 住民が自ら景観に関わり、磨いていく活動へと発展させる
- ・ そうした動きを行政側が支援していく